

1 国語科研究主題 「豊かな言語活動を導き出す国語学習のあり方
 ー基礎学力を身に付け、生き生きと表現する姿を求めてー」

2 題材名 言葉2 「敬語」

3 題材について

(1) 題材感

本題材は、中学校学習指導要領「話すこと・聞くこと」の「目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと」の内容を受けている。そして、調べて分かったことや考えたことに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすることを通して、言葉の特徴や決まりに関する事項について学習することをねらいとする。日本語についての現状や問題点は様々な角度から挙げられるが、その中で敬語の学習を通して、互いを尊重する気持ちを大切に自らの言語生活を振り返ることができればと考える。

生徒達は中学生になってから、部活動や委員会活動などを通して先輩後輩の立場の違いを自覚し、敬語の必要性に気づくようになってきている。しかし、日常で体験的に学習するものの敬語の種類や特徴、使い方について本格的に学習するのは、中学生では本題材が初めてとなる。敬語の存在は日本語としても重要なものである。この機会に日本語について振り返り、現在から将来に渡って場にふさわしい言語生活を送るためにも、本題材の学習に積極的に取り組ませたいと考える。

(2) 指導内容の系統

本題材に関わる題材の配列は、次の通りである。

(中学校1年生)	(中学校2年生)	(中学校3年生)
「声を届ける」	①類義語・対義語・多義語	①和語・漢語・外来語
①話し言葉と書き言葉	「言葉を選ぼう」	「言葉を使おう」
「言葉を集めよう」	②敬語	②慣用句・ことわざ
②指示する語句と接続する語句	③方言と共通語	・ 故事成語
③様々な表現技法		

(3) 生徒の実態

男子〇〇名、女子〇〇名の計〇〇名の学級である。国語科の学習に関しては、他教科に比べ、苦手意識を持つ生徒は少なく、授業には真面目に取り組んでいる。しかし、受け身の姿勢が全体に見られ、特に女子では授業中ノートをまとめることに意識が集中し、数人の男子の発言が授業をリードすることが多い。そして、多くの生徒は発表に関して消極的な姿勢を見せている。そこで、授業の中でグループの話し合いや発表場面を設定し、主体的に学習に取り組む場面が必要である。また、国語の学習内容の中では、全体的に語句の力が弱く、表現力も控えめである。既習の漢字をきちんと使用し、豊かな語彙表現ができるような生徒の育成を目指し、さらに、国語の学習に取り組ませたいと考える。敬語表現については、中学生になって特に敬語を意識し始め、使う機会は増えてきている。しかし、立場や状況に対する言語感覚が磨かれておらず、ともしれば敬語を使用しないで生活してしまうことも多く見られている。

題材に関する実態調査は、次の通りである。

＜ 題材に関する実態調査＞（男子〇〇名，女子〇〇名） ○月○日実施
 判定 ◎・・・優れている（程度：高） ○・・・普通 △・・・今一歩（程度：低）

観点	評価項目
関心・意欲 ・態度	国語は得意 敬語への関心
話すこと 聞くこと	発表得意分野 班で話し合う
言語に関 する事項	敬語の知識 語句への知識理解

実態調査から「国語が得意である」と答えた生徒は〇〇％で、「比較的得意な生徒」は〇〇％となっている。全体的に国語科への苦手意識は少ない。さらに、国語科の学習分野の中では、漢字語句への得意意識が〇〇％と一番高く、ついで聞くこと・書くことが〇〇％を示している。一番苦手としていたのは話す分野で全体の〇〇％の生徒が、発言・発表・話し合いなどの場面で消極的な意識を示していた。国語科の学習は生活への密着度も高く、読書を含めると楽しみも多く味わうことができる教科である。そして、最近になって、書くことへの苦手意識もかなり払拭してきている。この調査で見られたように、表現力の育成が今後の課題となっているのである。

今回取り上げる「敬語」は、生活の中でその言語感覚を獲得してきているものであるが、個人差は大きいと思われる。〇〇％の生徒は敬語の使用が正確で自信を持っているが、〇〇％の生徒は敬語表現が曖昧で間違いも多く見られている。これらから学習を展開するに当たって、個人差に配慮していくことが大切であると考ええる。

そこで、実態調査集計上のNo.〇、〇番のように敬語への関心の低い生徒については、敬語の特徴や必要性についての学習で、意識を高めることを目指した展開をしていきたい。また、No.〇、〇番のように、国語は得意であるが発言することが苦手な生徒に関しては、グループ発表の場を与え、自信につながるようにしていきたい。さらに、発表を得意とするNo.〇、〇、〇、〇、〇番の生徒達は学習の中で敬語表現への知識理解をさらに高め、表現意欲の向上につなげていければと考える。

4 題材の目標

- (1) 敬語の意義や働きについて考え、自分の言語生活の向上に役立たせることができる。
 (関心・意欲・態度)
- (2) 敬語の種類や特徴について、分かりやすく発表することができる。(話すこと・聞くこと)
- (3) 敬語の種類や特徴について理解し、場面や状況に応じて適切に敬語を使うことができる。
 (言語)

5 指導計画(3時間扱い)

- (1) 自分の言語生活を振り返り、敬語の働きや敬語の種類について知る。・・・ 1時間
- (2) 敬語の種類や使い方について調べ、ワークシートにまとめる。・・・ 1時間
- (3) 敬語の種類や使い方についてグループ発表し、敬語の使い方を考える。・・・ 1時間(本時)

6 本時の指導(3/3)

(1)

目標

- ① 敬語の種類や使い方について調べたことを分かりやすく発表できる。(話すこと・聞くこと)
- ② 敬語の種類や使い方について知り、自分の言語生活に役立てる。(言語)

(2) 仮説との関連

教科の研究仮説

学習活動の中で、計画的に意見を比較する場を設けるとともに、異なる意見も採り上げ認める配慮をしていけば、表現する喜びや充実感が増し、進んで学習する態度が育つであろう。

<p>4 学習した言葉やその他の敬語表現を2人組で練習し、表現する。</p>	<p>5分 (一斉)</p>	<p>・ 発表の得意な〇〇〇番の生徒に発表させ、敬語の良さを味合 わせるようにする。</p>	
--	-------------------------	--	--

本年度の長南中研究主題「表現力を身につけ、確かな学力で変化に対応できる、健康で心豊かな生徒の育成」

研究仮説「各教科の授業を始め教育活動全体の中で「表現」活動を取り入れれば、コミュニケーション力も高まり、確かな学力を定着させることができるであろう。